

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	NPO 法人 あったかほーむ愛あい	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護 音 OTO
所在地	(〒883-0021) 日向市大字財光寺中の原 1182-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

地域密着型事業として看護小規模多機能で通所・訪問・宿泊・看護の4つのサービスを柔軟に取り入れながら利用者様やご家族が不安のない生活が送れる様に支援しています。
また、医療依存の方や看取りの支援も行っています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2026 年 12 月 15 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 2 月 19 日	出席人数 (合計)	(11) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (1 人) <input type="checkbox"/> その他 (____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	該当なし	該当なし	該当なし
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	該当なし	該当なし
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	該当なし	該当なし
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	該当なし	該当なし
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	該当なし	該当なし	該当なし

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	○理念は日頃からチーム内で共有できており、月1回の職員会議（スキルアップ研修）・モニタリング会議、情報共有アプリの活用など、運営の基盤は整っている。一方で、理念や看多機のサービス特徴の理解について職員間・専門職種間でのばらつきがあり、共通理解の平準化が課題である。また、運営推進会議等から助言を得る機会ではなくお褒めの言葉をいただく	①理念・看多機の共通理解を平準化する。 ・全職員が「理念」と「看多機の強み(通い・泊まり・訪問・看護・ケアマネ連携)」を同じ言葉で説明でき、ケアに反映できる状態にする。 ②外部意見を助言・改善に変える。 ・運営推進会議が「褒められてもらう場」だけでなく、課題を持ち帰れる

		<p>ことが多いため、外部意見を取り入れる仕組み作り化が必要である。BCPは策定済みだが共有・訓練等の運用面の強化が今後の課題である。</p>	<p>場にする。</p> <p>③BCPは訓練してだれでもが行動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害・感染・停電等でも、初動が迷わず動ける(誰が何をするか即答できる)状態にする。
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>○介護・看護・多職種間で、定期的なモニタリング会議や職員ミーティング、チャットツールを活用し、アセスメント結果や状態変化を共有しながら役割分担・サービス調整を行えている。利用者・家族の意向を踏まえた計画は担当者会議やチーム内ミーティング、作業療法士の助言等も活用して作成し、初回開始時や状態変化時には説明して同意を得よう努めている。一方で、疾病等の情報交換や終末期の状態変化の段階的な説明・共有は十分とは言えず、在宅生活が困難なケースも増えているため、医療機関・訪問看護との情報連携と家族への説明の標準化(記録の統一を含む)が課題である。</p>	<p>①状態変化時(入退院・急変・終末期)において、関係機関の情報共有が確実に行われ、家族への説明内容・同意取得・記録が統一された形で実施できる体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態変化時の連絡・報告内容・方法等を整備し、状態変化時にこまめに報告し共有を図れる体制を確立する。 ・初回登録開始時や状態変化時のみでなく、担当者会議毎にDNARの再確認を行うなど、スタッフ、家族、医療機関とその都度、家族・本人の思いを共有できる体制を作っていく。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>○医療機関とは情報共有をこまめに行い、利用者の在宅生活への円滑な移行支援に取り組んでいる。緊急時対応は、登録開始時からDNAR等を確認・共有し、契約時にも家族と対応方針の確認を行うなど、事前の備えを進めている。一方で医療機関によっては夜間対応がむずかしい場合があるため、平日日中のうちに連携・対応調整を行う体制づくりと、運営推進会議での報告に加え外部意見を得る工夫が課題である。</p>	<p>◎夜間・休日の受診対応の困難さを把握したうえで、緊急時の判断・対応・連絡が遅滞なく行える連携体制を確立する。平時より状態観察をしっかり行い、早期発見・対応を行う体制の統一化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録開始から2週間以内には緊急時の対応(DNARや情報カード)などを作成・集約し、他職種での共有をする。 ・医療機関ごとの連絡可能時間帯・休日夜間の代替手段を一覧化し、職員へ周知し、だれでも分かる対応できる体制にする。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>○ホームページを定期的に更新し、年2回のOTTOカフェや地域行事への参加、学校運営協議会への参画などを通じて、地域へ積極的に情報発信・課題提起を行えている。基準該当ショートステイの受け入れや喀痰吸引等の資格取得・看護師の指導体制整備、人工呼吸器・看取り対応など、医療ニーズの高い利用者を受け入れる体制が整っている。一方で在宅での受け入れた実績はあるものの家族希望で入所施設へ移行するケースもあり、在宅継続支援の強化と運営推進会議構成員への実態報告していき理解促進</p>	<p>◎在宅継続支援を強化し、家族の不安・負担軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族負担軽減の為に定期的にモニタリング等を行い評価し、サービスの調整等を計画的に提案・実施する。 <p>◎医療的ケア受け入れ体制を見える化し、地域・関係機関へ周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ状況等を定期的に医療機関へ報告したり、ホームページ等で発信したりしていく。 <p>◎運営推進会議で実績報告を定例化し、理解促進と協力体制を強化する。</p>

		を継続する必要がある。	・受入れ実績、在宅継続に繋がった支援（事例等）や地域課題を報告し、助言を改善へ反映する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	○各ケアプランの目標は毎月にモニタリングしており、リハビリで改善・自宅拭き出来る方もいる一方、終末期や状態変化が大きい利用者は達成に至らないケースが多い。在宅療養の継続に対する安心感づくりとして、日中の様子・食事・体重変化などを写真も交えてツールで共有し、表情等の変化も記録している。看取りに関しては初回会議等で家族説明の機会が多く、泊まり支援で 24 時間の付き添い・面会制限なし（簡易ベッド準備、出入り方法の事前案内）など、家族が関わりやすい体制を整えている。		◎モニタリング会議の中で目標の未達成な部分は次月の支援方針へ確実に反映する。 ◎終末期・状態変化が大きい利用者は、状態に応じた短期目標（安楽・不安軽減等）を設定し、月モニタリングへ見直す。 ◎家族支援（説明と定期的な LINE を用いた本人の様子の共有）

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	✓				<p><u>・新人へのちゃんとした指導が出来ている。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		✓			・ 誰が専門職か分からないが、全体としてチームで関りができている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	✓				・ 予定表を見ても、たくさん勉強されていると感じる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	情報を共有する機会が、確保されている	[具体的な状況・取組内容] 月1回の利用者ごとのモニタリング会議の実施。情報共有アプリの活用					✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	✓				サービスに対して納得していることが多い	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 助言等をいただく機会があまりない					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に		✓			特記なし	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	努めている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ライフスタイルに合わせた休日の取得が しやすい					ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支 援」、「精神的な負担の軽減のため の支援」、「労働時間への配慮」な どが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている	✓				特記なし	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
(5) 安全管理の徹底							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	✓				地域を巻き込んだ災害訓練もしているなど取り組みは素晴らしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		✓			特記なし	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] <u>担当者会議やチーム内でのミーティングにて計画の作成を行っている。</u>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能	✓				特記なし	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> リハ専門職によるアセスメントまたは助言にて、計画の作成を行っている					た計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		✓			特記なし	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員ミーティングにて他職種間での情報共有を定期的に行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	✓				特記なし	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 状態変化時に迅速な対応や担当者会議を行い、サービス変更を柔軟に行うようにしている					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			✓		・介護力がない自宅に帰して怪我をしてしまうこともあるため、家族等の介護力の把握が重要。 ・在宅が困難と思ったCMや家族が相談してきている。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 家族等の事情や利用者本人の状態によって自宅での生活が困難な利用者が増えている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		✓			特記なし	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 訪問診療や、ひかりケアラインにて情報共有が行われている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		✓			特記なし	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護で
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> それぞれの職種における役割分担について定期的な会議にて話し合っている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							は、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		✓			特記なし	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている			✓		<p>・看護師よりもケアスタッフの方がレベルが高い。ケアスタッフが指示を出す事は多い。連携面ではケアスタッフが中心となることが多い</p> <p>・経験がものをいう。人に触ったほど知識が高くなる。</p>	<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
[具体的な状況・取組内容]		モニタリング会議や情報共有アプリを活用し実施中					
[具体的な状況・取組内容]		疾病等における情報提供や、予後予測の観点からの提案は今後強化が必要。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		✓			特記なし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 初回のサービス開始時には時間をとった説明にて同意を得ており、状態変化時にも会議等にて概ね全職種参加し対応している					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		✓			特記なし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅環境が整わなかったり、利用者負担が多い時には計画通りの説明をしても理解を得ることが出来ない場合もある					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		✓			特記なし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師により医療処置の方法等を説明指導することは時々ある					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	✓				特記なし	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 本人の「〇〇がしたい」という思いに寄り添った支援をできるだけ行うようにしている					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定	✓				特記なし	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> サービス開始時や在宅環境を把握するために専門職が住宅評価を行い、必要な提案等を行い、状況を共有している					討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		✓			特記なし	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等		✓			特記なし	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 終末期の利用者の状態変化を段階を踏んで細かく伝える事は出来ていなかったが、必要時は担当者会議等で話し合い記録に残していった。					ます ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		✓			特記なし	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含め		✓			特記なし	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価しま

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	て、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 医療機関によっては、夜間対応が厳しい医療機関もあるため、平日の内に対応が出来るよう努力している				特記なし	す
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		✓			特記なし	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	✓				特記なし	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ホームページでの更新を定期的に行っている					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 年に2回の地域住民参加型のイベントOTOカフェを開催し利用者ご家族や、地域住民の方々、学生等の参加がある。また地域交流委員会を設置し、地域のイベントへも積極的に参加している。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	✓				特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			✓		<p>包括をし始めると理解力が高まる。財光寺包括を中心に包括ケアシステムの構築を向上させていく。</p> <p>住民が使い方が分かるかが大事。これの周知ができていない。していこうと思う。</p> <p>資源がどうかなどの周知が行政が理解できていない部分もある。</p>	<p>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ できて いる	あまり できて いない	全く できて いない		
						みんなで支えようと思う資源を作っていくのは難しいし、まだまだ足りないものはある。	
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		✓			特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		✓			<u>特記なし</u>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>運営推進会議のメンバーに対しての事業所の介護実践の報告、中学校学生の職業体験を通じて施設の取り組みを見てもらうことが出来ている</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>① 各ケアプランの目標評価を毎月末にモニタリングを行い実施している。</p> <p>② ただし、終末期や状態の変化の大きい利用者が多く、達成に至らない方も多い。</p> <p>③ リハビリによって改善が見られる方もおり、自宅に復帰できる方もおられる。</p>	特記なし	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>日中の様子、食事の摂取状況、体重の変などは状況の良い場面やレクリエーション写真と一緒にツールを使って報告している。</p> <p>特に医療機関での閉塞感から解放された後の表情の変化は著しく、写真で記録している。</p>	特記なし	ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>医療機関では、面会の時間制限があるようで、看護小規模多機能音 OT0 初回の会議時に特に家族に聞かれることが多い。泊まりの支援では24時間、家族付き添いでの看取り体制ができています。特に、終</p>	特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<p>末期には一緒に過ごせることができるよう、泊まり時の面会制限は設けていない。家族、親族が宿泊対応できるよう、簡易ベッドの用意もしている。家族が、気兼ねなく勝手口から施設に入れるよう、事前にその方法も伝え対応ができています。</p>		